

群馬県立世界遺産セカイトビジターセンター

セカイトビジターセンターでは、群馬県の絹織物との関わりや、絹が日本と世界の各地を何世紀にもわたって結びつけてきたことを紹介しています。2014年にユネスコ世界遺産に登録された「富岡製糸場とその関連遺跡群」に認定された群馬の養蚕の長い伝統と、日本の絹織物の近代化に果たした役割を紹介しています。

4つの世界遺産

1階のインフォメーションギャラリーでは、世界遺産に登録されている荒船風穴蚕種貯蔵所、田島弥平旧宅、高山社養蚕学校、富岡製糸場の4つの世界遺産を紹介しています。

19世紀後半から、4つのサイトはそれぞれ、絹生産の工業化に重要な役割を果たし、20世紀の半分以上にわたって日本を世界最大の生糸生産国にしました。各サイトは、カイコの卵から生糸の巻き取りまで、養蚕プロセスのさまざまな側面を表しています。

荒船風穴では、カイコの卵を冷蔵保管し、カイコが孵化する時期を管理し、生産量を増やすことができました。田島弥平養蚕場と高山社養蚕学校はそれぞれ、カイコを繭の段階まで育てるプロセスを改善しました。富岡製糸場は、繭から生糸を巻くための日本初の完全機械化された産業施設でした。

生産サイクル全体は、ビジターセンターの1階の展示で紹介され、詳細は2階で提供されます。

「糸」をたどって

各サイトを地図や年代物の写真、解説で紹介しています。1階の大画面シアターでは、4つの世界遺産の昔と現在の様子を映像で紹介しています。

絹は5000年以上前に中国で元々生産されており、その後各国に広まった貴重な織物です。展示物は、養蚕がどのようにして始まり、世界に広まっていったのかを説明しています。絹が新たな地で生産されるようになると、養蚕や生産方法に改良が加えられ、後に中国に戻ってきました。

繭をモチーフにしたデザインやアイコンなどの展示では、絹の「糸」が歴史のさまざまな時期に世界中のさまざまな方向に移動した事や、群馬県や4つの世界遺産が近代的な絹の生産を促進する上で重要な役割を果たしてきたことが紹介されています。ビジターセンターの和名である「セカイト」は、日本語の「世界」と「糸」を組み合わせた名前です。

詳細

2階では、4つの世界遺産や群馬県の絹文化の歴史調査など、より詳細な展示が行われています。

インタラクティブな画面では、それぞれの遺産が稼働していた頃の詳細をアニメーションで再現されているほか、現場で働く人々の日常生活をアニメーションで紹介され

ています。製糸工場は日本に近代的な工場の仕事を紹介しました。復元図を見ると、これがここで働く人々のライフスタイルをどのように変えたかを示しています。

19世紀の養蚕家である田島弥平と高山長五郎が、新しい養蚕法の開発とカイコの改良の最前線で紹介した、カイコの養蚕技術の時代のイラストや写本も展示されています。

また、荒船風穴で蚕の卵を保管するために山腹に築かれた石垣の中に建てられた木造建築物を再現した展示もあります。

数字で見る絹

蚕が成熟するために食べる桑の葉の量や、布に使われる糸を作るのに必要な繭の数など、様々な重要な数字が展示されています。養蚕・絹さや織りの「豆知識コーナー」では、さらに価値のある情報を提供しています。

人と場所のマッピング

1世紀前に絹の生産に携わった人々と場所は、2階の中央にある大きな繭の形をしたテーブルのアニメーション化されたインタラクティブな卓上で詳しく説明されています。

群馬県の絹とのつながりは長く、奥深いです。昔から養蚕は、稲作が困難な岩場や山間部に住む農民達の重要な収入源でした。「群馬の絹文化」展では、卵から織物まで、県内の絹の生産工程全体を紹介しています。ヴィンテージ写真やその他のイラストは、プロセスに命を吹き込みます。床に埋め込まれたカラフルなイラストの地図は、県内の各地域にとって、さまざまな生産段階の重要性を示しています。

養蚕においては常に女性が重要な役割を果たしてきました。女性は蚕を養い、繭から糸を巻き取り、絹織物を織るための織機を操作していました。アニメ映画「かかあ天下：ぐんまの絹物語」は、畜産業としての絹と、女性が果たす重要な役割を物語っています。

1つのディスプレイでは、卵から繭になるまでの期間を示した蚕のライフサイクルが展示してあります。繭のレプリカと、カイコが繭を回転させる小さなキュービクルの棚により、訪問者はカイコのライフサイクルの「最終」段階を想像することができます。

関連遺跡群

群馬県には、世界遺産に登録されている4つの遺跡に加えて、家内工業から産業変革までの絹の歴史をたどる日本遺産がいくつかあります。県内各地に保存されている茅葺き屋根裏で養蚕をしていた茅葺き農家や、養蚕や製糸の伝統的な手仕事の道具を展示した博物館、生糸の輸出業者が使っていた倉庫などがあります。これらの場所はフロアマップにも表示されています。

遺跡には、茅葺きの下の屋根裏空間で蚕を飼育していた伝統的な茅葺き農家が含まれており、県内各地の集落に保存されています。養蚕や絹の生産に使用される伝統的な手動の道具が展示されている博物館。生糸の輸出業者が使用する倉庫。これらのサイトの場所はフロアマップに表示されています。